

10月10日、英国で生まれたがん患者のための相談施設「マガーズ・キャンサー・ケアリング・センター」(マガーズセンター)の二つとして、東京・豊洲(東京都江東区)に「マガーズ東京」がオープンしました。日本初のマガーズセンターです。マガーズセンターは病院の建物の外にあるため気軽に訪れることができ、患者や家族に居心地の良い空間を提供するのみならず、患者に寄り添いながらさまざまな状況で必要な意思決定を支援するなど、既存の医療機関にある「がん相談支援センター」や、患者同士が集まる「がんサロン」などは異なる新たな患者支援の形になると期待されています。

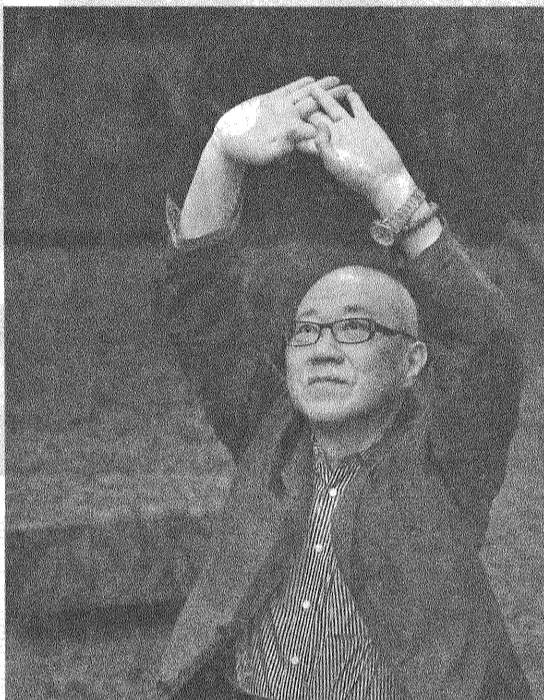
私とその存在を知ったのは2010年です。初めは「同じような施設が金沢にあつたらいいな」と、あこがれる程度でした。しかし、この連載でも取り上げ

院外でゆったり本音を

医療者・患者交流の場作り

西村 元一
金沢赤十字病院副院長

ドクター元ちゃん
がんになる



丸山博撮影

ているように、医療者ががん患者、その家族との間のコミュニケーションが増え、病院の外、つま

り生活の中に医療者と患者、家族との交流の場があり、医療者も白衣を脱いで参加して「本音」で対話できれば、医療者と患者、家族、住民のズレを小さくできるのではないかと考え始めました。

街中にもいろいろなサロンのようなものがあります。しかし、多くはがん以外の病気や生活の悩みにも対応しているため、がんの悩みについて、どれくらい分かってもらえるか不安で、あまり自分のことは話せないという人がいます。患者会も増えていますが、「医療者が同席していない中で話していると、患者同士の一方的な意見が多くなって心配になる」という声を聞きます。

私は10年、金沢の仲間たちとともに「がんと向きあう会」を設立し、がんと向き合いながらも病人ではなく、その人らしくいることができる場作りを目指して活動に取り組んでいます。その仲間たちと「金沢一日マガーズの日」と名付けたイベントを企画し、医療者と患者、家族が交流できる機会を毎年作ってきました。

そこで、私たちはより積極的な取り組みを計画することにしました。

にしむら・げんいち 1958年金沢市生まれ。83年金沢大医学部卒。金沢大病院などを経て、2008年金沢赤十字病院第一外科部長、09年から現職を兼務。13年から、がん患者や医療者が集うグループ「がんと向きあう会」代表。

次回は11月27日掲載